投石ひも〈オンダ〉

A0210
クスコ／ペルー

アンデスの玉手箱ーペルー南高地の祭りと生活

参照資料

図録『アンデス文明』
p.99、p.177

フィールドアルバム

「季刊民族学」ファイル
～雄牛とコンドル

取扱注意：
試すときには、まわりの人や物に十分注意しておこなってください。

HONDA

地方色豊かだが、作り方の原理は同じ組みひも。古くから使われてきた。中央にはさんだ石を目標に向けて上手に飛ばすにはこつがいる。手を離れた一方のひもが石の飛んでゆく方向を定め、鉄砲の銃身に似た役をする。

飛ばし方：一方の端を小指にかけておく

關先生からのひとこと

今でも山の牧民は、これで家畜の群をコントロールしています。移動のときに群れからはぐれないように石を投げたり（ぶつけません。）します。石を入れずに、ひもをふりまわしたり、地面にたたいたりすることで音を出しておどかすこともします。4000m の高地ですと、アンデス原産のアルパカやリャマといったラクダ科動物や羊、もう少し低くなると牛もこの投石でコントロールします。
それにときどき、これを使った戦争のような祭りも村同志で行われています。この祭りはインカの時代から続いているようです。